委託事業実施内容報告書
平成27年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
【地域日本語教育実践プログラム（B）】

実施内容報告書

受託団体名　公益財団法人浜松国際交流協会

1.　事業名称

・浜松版地域日本語教師育成検討事業

2.　事業の目的

・ 外国人集住都市浜松では、外国人住民の定住・永住化が進んでいる。これまで、行政、NPO団体、当協会等が市内で日本語教室を開催してきたが、定住が長くなるにつれ外国人住民の日本語教室に対するニーズが変化していることがわかってきている。一方で、新しく浜松市の住民となる外国人も増加しており、これから日本語を学ぶ人を対象とした教室と今後グローバル人材となり地域の活力になるために必要な日本語を学ぶ教室の両輪が必要になると考える。

（公財）浜松国際交流協会は中間支援組織として、地域の特徴や現状を見極め、それに適した日本語教育ができる人材を育成していくことが、将来的に当地域の日本語教育が充実することと考え、浜松版地域日本語教師の育成について検討する事業を行う。また、既存の地域日本語学習支援団体に所属する日本語教師や、日本語教師の資格を取得中の方々の横のつながりを築くため、情報交換、情報共有を積極的に図る。

3.　事業内容の概要

・これまでの経緯から、地域日本語学習支援団体との連携を円滑に行い、人材不足という共通の課題に対応する方法として、地域で活動する日本語教師のスキルアップ研修が必要だと考える。外国人集住都市である浜松で必要とされる日本語教師を多く輩出することが、団体活動の活性化につながり、ひいては日本語を学ぶ学習者にとっても良いことだと考える。平成22年度文化庁日本語教育研究委託「生活日本語の指導力の評価に関する調査研究報告書」の中に、地域日本語教育・支援に関わる人々の役割と求められる資質・能力についての言及がある。有識者を迎え、本報告書の内容について検討しながら浜松版地域日本語教師育成講座カリキュラム会議を行い、カリキュラムの開発を行う。年度の後半には、カリキュラムの内容として予定しているHAJACテスト評価者養成講座を試しその結果を踏まえ、次年度の始動に向けて調整を進める。

定住外国人の学習ニーズに対し、「定住外国人のための日本語ブラッシュアップ講座」を開設する。ライティングやコミュニケーションに特化した日本語講座のほか、マナーや接遇、敬語の使い方など日本の組織文化を学ぶ講座を一連で行う。その他、フォトストーリーテリングの手法を学び、定住外国人が自らのライフストーリーをイベントで語ることで、グローバル人材として社会へ発信できるように支援する。また、今後地域日本語教室にも中級上級レベルを指導する人材が必要となることを見据えて、本教室が浜松版地域日本語教師育成講座の実践研修の場となりうるかの検証も行う。

すでに地域に根付いている定住外国人が、地域の活力となりうるグローバル人材として社会に認知されるよう、定住外国人のための日本語ブラッシュアップ講座の学習者らを中心に発信イベントを行う。内容は、昨年度好評だったライフヒストリー・テリングを行う。写真を用いて作成したパワーポイントのスライドにあわせながらライフストーリーを語る。昨年度のアンケート結果からも、本スタイルが観客へ国際理解を伝える効果があったと実証されているため、今年度は昨年度の課題を修正してよりよいイベントとしたい。

4.　事業の実施体制について

・浜松市内で唯一、日本語教師養成講座を開講している民間企業と連携し、当該地域に必要な日本語教師を育成するためのカリキュラムを開発する。また、持続可能な講座とするために、連携の具体的な内容についても検討し、仕組みづくりに取り組む。
育成した日本語教師が地域で活動できるよう、日本語学習支援団体との引き続きの円滑な連携体制を維持する。地域日本語教育コーディネーターを中心に、行政、民間企業、ボランティア団体との間に入って対話を行い、事業が円滑に進むよう尽力する。

5.　運営委員会の開催について

【運営委員】

1	石塚　良明	浜松市企画調整部国際課
2	小野　彬	ヒューマンアカデミー浜松駅前校
3	嶋田　和子	一般社団法人アクラス日本語教育研究所
4	白井　えり子	With U-Net
5	保坂　いくみ	株式会社ソミック石川
6	村田　和彦	公益財団法人浜松国際交流協会

【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	平成27年4月27日(月) 14:30～16:OO	1時間 30分	浜松市多文化共生センター	石塚良明 小野彬 嶋田和子 白井えり子 保坂いくみ 村田和彦	1. 事業計画について 2. 日本語ブラッシュアップ講座について
2	平成27年10月23日(金) 15:00～17:OO	2時間	浜松市多文化共生センター	石塚良明 小野彬 嶋田和子 白井えり子 保坂いくみ 村田和彦	1.日本語ブラッシュアップ中間報告 2.浜松版地域日本語教師育成講座カリキュラム開発会議中間報告 3.HAJACテスト評価者養成講座予定 4.写真で語る私の歴史予定
3	平成28年3月11日(金) 15:00～16:30	1時間 30分	浜松市多文化共生センター	石塚良明 小野彬 嶋田和子 白井えり子 保坂いくみ 村田和彦	1.日本語ブラッシュアップ報告 2.浜松版地域日本語教師育成講座カリキュラム開発会議報告 3.HAJACテスト評価者養成講座報告 4.写真で語る私の歴史報告 5.事業評価

6.　取組についての報告

取組1：浜松版地域日本語教師育成講座カリキュラム開発会議

（1）体制整備に向けた取組の目標

・平成28年度の浜松版地域日本語教師育成講座の開講に向け、カリキュラムを開発する。また、講座が継続して開講できるよう、運営方法や関係機関との連携の在り方についてもあわせて協議する。

（2）取組内容

・平成22年度文化庁日本語教育研究委託「生活日本語の指導力の評価に関する調査研究報告書」を中心に、外国人が集住する当該地域で必要とされる日本語教育、またそれを担う日本語教師に必要な要素を検討し、浜松版地域日本語教師養成講座カリキュラムを開発する。
また、浜松で唯一日本語教師の資格が取得できる講座を開講するヒューマンアカデミーと連携し、地域で活動する日本語教師に必要とされる知識や技術を習得する体制について検討する。

（3）対象者

・有識者、地域で活動する日本語教師、民間日本語教師専門学校関係者

（4）参加者の総数　　10 人（延べ人数ではなく，受講した人数を記載すること。）

そのうちの日本語学習者数　　0　　人

【出身・国籍別内訳】

中国	人	インドネシア	人	
韓国	人	タイ	人	・
ブラジル	人	ペルー	人	・
ベトナム	人	フィリピン	人	・
ネパール	人	日本	人	

（5）　開催時間数（回数）　18 時間　（全 6 回）

（6）　活動の具体的内容

回数	開催日時	時間数	場所	参加者数	議題及び検討内容	出席者名
1	平成27年5月22日（金）14:00～17:00	3	クリエート浜松54会議室	10人	・コーディネーターからみた日本語教育の現状と課題（H26文化庁事業振り返り） ・日本語教師からみたコーディネーターへのリクエスト ・日本語教師からみた理想の日本語教室 ・地域日本語教育専門家と浜松版地域日本語教師の定義検討 ・素質・能力の具体化（カリキュラム化） ・ヒューマナカデミー日本語教師養成講座との連携について ・次回までのアクションプラン	嶋田和子 石川智子 小野彬 白井えり子 針山摂子 松葉優子 松本三知代 内山夕輝 河口美緒 鈴木由美恵
2	平成27年7月24日（金）14:00～17:00	3	浜松市多文化共生センター	10人	・浜松版地域日本語教育概観図の作成と文字化について ・文化庁の日本語教育大会について ・浜松版地域日本語教師という名称について ・教師に必要な力とは ・日本語学校と地域の教室の違い ・30時間カリキュラム案 ・次回までのアクションプラン	嶋田和子 石川智子 小野彬 白井えり子 針山摂子 松葉優子 松本三知代 内山夕輝 河口美緒 鈴木由美恵
3	平成27年9月4日（金）14:00～17:00	3	クリエート浜松特別会議室	9人	・地域における日本語教育・学習支援の場とそこで学ぶ人の確認 ・浜松版地域日本語教師は誰に何をするのか？ ・浜松版地域日本語教師の保障について ・30時間カリキュラム案 ・次回までのアクションプラン	嶋田和子 石川智子 白井えり子 針山摂子 松葉優子 松本三知代 内山夕輝 河口美緒 鈴木由美恵

4	平成27年12月11日（金）14:00～17:00	3	クリエート浜松54会議室	10人	・浜松版地域日本語教師育成講座の位置づけ −誰に受講してもらい、何を学んでほしいか（ねらいの確認） −日本語教師資格取得→浜松版地域日本語教師育成講座（30h受講）→HAJAC評価者養成講座（認定）→浜松版地域日本語教師?? ・30時間カリキュラム案の検討 −要素E,Fの内容について	嶋田和子 石川智子 小野彬 白井えり子 針山摂子 松葉優子 松本三知代 内山夕輝 河口美緒 鈴木由美恵
5	平成28年2月5日（金） 14:00～17:00	3	クリエート浜松特別会議室	8人	・最近の動向 −企業、高校、個人（外国にルーツを持つ若者）からの日本語学習相談が増加 →多様なニーズに応じられる日本語教師が必要！ ・HAJAC養成講座報告 ・前回までの確認 −受講対象者を明確に −HAJAC評価者養成講座は、浜松版地域日本語教師のためのブラッシュアップ講座という位置づけでよいのでは？ （浜松版地域日本語教師養成講座内に組み込まない） ・30時間カリキュラム案の検討 −要素E,Fの内容について −講師選定 −開催時期（前期後期と2期制） −受講料（自立して継続するための有料化） −修了証制度	嶋田和子 石川智子 小野彬 針山摂子 松葉優子 内山夕輝 河口美緒 鈴木由美恵
6	平成28年3月4日（金）14:00～17:00	3	クリエート浜松特別会議室	9人	・カリキュラム案の最終検討 −要素E,Fの内容 −講師 −開催時期 −体制とスケジュール	嶋田和子 石川智子 小野彬 白井えり子 針山摂子 松葉優子 内山夕輝 河口美緒 鈴木由美恵

（7） 特徴的な活動風景（2～3回分）

活動例①

【第2回　平成26年7月24日】
地域で学ぶ学習者の背景や日本語を学ぶ目的がいかに多様で難しいかが確認された。地域で日本語を教える日本語教師に必要な素質・能力の具体化について議論をすすめた。

活動例②

【第6回　平成27年3月4日】
これまでの会議で議論を続けてきた浜松版地域日本語教師養成講座の内容、依頼する講師、運営体制について最終確認を行った。

（8） 目標の達成状況・成果

6回の会議を通じて、地域で行う日本語教育の重要性について、現場の教師を中心に議論することができた。外国人の来日目的やそれまでの学習歴によって必要とされる日本語教育が違うため、ニーズに即したコースデザインの作成が必要なこと、多様な学習者に寄り添いながら学習者が社会に参画することを意識した日本語教育を行うこと等、地域で活動する日本語教師に求められる専門性が幅広く必要なことが確認された。
また、移り変わりが激しい学習者の生活環境を想像し状況に応じて臨機応変に対応したり、場合によっては学習者からの相談内容に応じて専門機関へつないだりと、地域日本語教師には「生活者としての外国人」への背景理解も求められる。日本語を学ぶ学習者は地域の構成員であるという認識と、日本語を使い多様な人材として社会で活躍するためにはどんな日本語教育が必要かという視点が必要であることが話された。
時代の変化に伴い日本語教師の需要や役割が増えているのは明白だが、それに答えるだけの絶対数と質の担保はない。担い手である地域日本語教師の身分保障や安定した職場の確保が望まれており、そのためにも引き続き地域日本語教育の重要性を社会へ発信し続けることが確認された。

（9） 今後の改善点について

高度人材候補である留学生の増加に伴う日本語学校の拡充、技能実習生や企業社員への日本語研修の増加に伴い、日本語教師の活動域が広がり、職が安定するのは質の担保につながり喜ばしいことである。一方で、これまで主に担い手の善意で続けてきた地域日本語教育にとって人材不足がますます深刻化するのは想像に難くない。短期的な対応策の地域日本語教師養成講座と並行して、中長期的な視野での計画も必要になってくるだろう。

取組2：浜松版地域日本語教師育成講座実践検証　HAJACテスト評価者養成講座

（1）体制整備に向けた取組の目標

・浜松市外国人学習支援センターでは、平成24年度に文化庁委託で開発したHAJACシステムを平成25年度に試行改善し、平成26年度からは本格的に導入を始めている。本システムは学習者の力を引き出しながらコミュニケーション能力を測り、その結果を評価することで授業の改善につなげることから、日本語教師のスキルアップに適した研修と考える。
浜松版地域日本語教師の育成を検討するにあたり、HAJACテスト評価者認定が浜松版地域日本語教師に必要な要素となるか検証を行う。

（2）取組内容

・浜松版地域日本語教師育成講座の実践検証として、HAJACテスト評価者養成講座を行う。また、結果を踏まえ、本講座を浜松版地域日本語教師育成講座カリキュラムにどのように組み込むか、また、講座運営の持続性についても検証する。

【カリキュラム】
第1回　HAJACシステム概要（講義）1.5h
第2回　評価について（講義）1.5h
第3回　インタビューの質問について①（講義）1.5h
第4回　HAJACテストの判定（C2～C4）（講義）1.5h
第5回　HAJACテストの判定（C5～C7）（講義）1.5h
第6回　インタビューの質問について②（講義）1.5h
第7回　模擬インタビュー①（講義）1.5h
第8回　判定について（講義）1.5h
第9回　評価シートの記載について（講義）1.5h
第10回　模擬インタビュー②（講義）1.5h
第11回　インタビュー実践①
第12回　フィードバック①（グループ実践）2h
第13回　インタビュー実践②
第14回　フィードバック②（グループ実践）2h
第15回　HAJACシステムの活用、認定者発表（講義）2h

インタビュー実践①②では、受講生が各自インタビュー、判定、評価の実践を行う。第12回第14回では受講生を小グループに分け、各グループの講師がフィードバックを行う。フィードバックの前には講師らが評価会議を行い、フィードバック内容の妥当性について協議する。

（3）対象者

・日本語教師、日本語教師資格取得中の者

（4）参加者の総数　　15 人（延べ人数ではなく，受講した人数を記載すること。）

そのうちの日本語学習者数　　0　　人

【出身・国籍別内訳】

中国	人	インドネシア	人	
韓国	人	タイ	人	・
ブラジル	人	ペルー	人	・
ベトナム	人	フィリピン	人	・
ネパール	人	日本	人	

（5）　開催時間数（回数）　20.5　時間　（全15回）

（6）　取組の具体的内容

回数	開催日時	時間数	場所	参加者数	取組のテーマ	授業概要	指導者名	補助者名
1	11月28日（土） 9：30～11：00	1.5	浜松市多文化共生センター	15人	HAJACシステム概要	・HAJACシステムの理念や背景、必要性 ・HAJACシステムとは ・評価者の認定について ・他機関の認定について	内山夕輝	

2	11月28日（土） 11:00～12:30	1.5	浜松市多文化共生センター	15人	評価について HAJACテスト概要	【評価について】 ・到達度テストと熟達度テストの違い ・コミュニケーションを測るときに必要な要素 【HAJACテスト概要】 ・HAJACテストレベル表（マニュアル　P3） ・インタビューを始める前に（マニュアル　P. 4-6） ・評価基準表の見方	松葉優子	
3	11月28日（土） 13:30～15:00	1.5	浜松市多文化共生センター	15人	インタビューの質問について①	・半構造化インタビューとは ・スパイラルに展開するには ・質問の型 ・話題の変え方 ・コミュニケーションを測る上でのインタビューの質問について	松葉優子	
4	11月28日（土） 15:00～16:30	1.5	浜松市多文化共生センター	15人	HAJACテストの判定①	音声を聞いて、判定をする　※音声（C2、C3、C4） 宿題：質問を考える。トピックは「仕事」	鈴木由美恵	
5	12月5日（土） 9:30～11:00	1.5	浜松市多文化共生センター/51会議	14人	HAJACテストの判定②	音声を聞いて、判定をする　※音声（C5、C6、C7）	河口美緒	
6	12月5日（土） 11:00～12:30	1.5	浜松市多文化共生センター/51会議	14人	インタビューの質問について②	・ロールプレイ・逆質問について ・ペアで質問の確認	石川智子	
7	12月5日（土） 13:30～15:30	2	浜松市多文化共生センター/51会議室	14人	模擬インタビュー①	・インタビューを通じて質問の仕方を学ぶ	石川智子 針山摂子 鈴木由美恵 河口美緒	陳　月嬌 Emilia Masuda 大野　雅子 トリシャ　アネ Camacho Maricho Gonzales 中里清美
8	12月5日（土） 15:30～16:30	1	浜松市多文化共生センター/51会議	14人	評価シートの記載について	・文字起こしについて ・評価シートの書き方	河口美緒	
9	12月12日（土） 13:00～14:00	1	浜松市多文化共生センター	14人	判定方法について	・フィードバックの方法 ・判定をすることにより見えるもの	戸田幸子	
10	12月12日（土） 14:00～16:00	2	浜松市多文化共生センター/53会議室	14人	模擬インタビュー②	・インタビュー通じて、質問、判定及びフィードバックの仕方について学ぶ	石川智子 針山摂子 松葉優子	Manem Pavani Matsumoto Marites Cruz 比嘉　マリザ オウ　セン たかはし かおり ヘレン　ラムニー

11				13人	インタビュー実践①	インタビュー音声提出（C0－C3の内1つ、C4orC5の内1つ、C6orC7の内1つ） ※音声・文字起こし・評価シートの提出締切日　1月6日（水）	松葉優子 石川智子 針山摂子 戸田幸子 山添有香子 河口美緒 鈴木由美恵	
12	1月16日（土） 13:30～15:30	2	浜松市多文化共生センター/52会議室	13人	フィードバック①	グループに分かれて、インタビューの質問や判定方法についてフィードバックをします。	松葉優子 石川智子 針山摂子 戸田幸子 山添有香子 河口美緒 鈴木由美恵	
13				13人	インタビューテスト実践②	インタビュー音声提出（C0－C3の内1つ、C4orC5の内1つ、C6orC7の内1つ） ※音声・文字起こし・評価シートの提出締切日　2月10日（水）	松葉優子 石川智子 針山摂子 戸田幸子 山添有香子 河口美緒 鈴木由美恵	
14	2月20日（土） 13:30～15:30	2	浜松市多文化共生センター/54会議室	13人	フィードバック②	グループに分かれて、インタビューの質問や判定方法についてフィードバックをします。	松葉優子 石川智子 針山摂子 戸田幸子 山添有香子 河口美緒 鈴木由美恵	
15	2月27日（土） 13:30～15:00	1.5	浜松市多文化共生センター	12人	フィードバック③ HAJACシステムの今後	【フィードバック】 全体的な傾向や課題について 授業への活かし方 【HAJACシステムの今後】 ・今後のHAJACシステムについて ・認定者発表	針山摂子 鈴木由美恵 内山夕輝	

（7） 特徴的な活動風景（2～3回分）

活動例①

【第7回　平成27年12月12日】
学習者に協力してもらい、模擬インタビューを行った。講義を受けて理解するだけではなく、実践を通じて力をつけていくことが重要である。

活動例②

【第15回　平成28年2月27日】
評価する→振り返る→授業を改善するのサイクルがHAJACシステムであることを確認した。測ること、評価することが第一義目的ではなく、日本語教師が学習者を評価することによって、自身の授業改善に繋げなければ意味がない。また、評価を通じて、いかに学習者の意欲を引き出せるかという視点が必要であることを改めて確認した。

（8） 目標の達成状況・成果

受講者の途中離脱が15人中2人いたが、ほとんどの方が非常に意欲的に受講してくれた。講座内容に実習形式を多く取り入れたので、受動的な受講にならず、その分難しいことも多かったと思うが、やりがいもあったのではないか。アンケートの結果から、インタビューを通じて自身の話癖に気づいたり、どう話せば学習者に届くか考えるようになった。レベル分けのためだけではなく、ステップアップさせるには何が必要なのか考えて授業をするようになった等、自身の授業を振り返る良い機会になったとの声が多数寄せられた。
また、地域日本語教室で支援を行っている受講者からは、バイリンガル教師に必要だと思われる日本語レベルについても意見があがり、そこまで伸ばすには何が必要か考えたいというコメントがあり、HAJACレベルの活用の可能性を感じた。

（9） 今後の改善点について

全13人のうち、4人がリミテッドテスターとなった。評価が厳しすぎるのではないかという意見が講師陣からあがり大きな議論となった。今後HAJACの活用もふまえてテスターの基準をどうするか検討が必須である。また、すでにテスターの方々においても、判定基準を定期的にお互いに確認しあう研修が必要だという意見があがったので、これらについては早急に検討したい。

取組3：定住外国人のための日本語ブラッシュアップ講座

（1）体制整備に向けた取組の目標

定住が長くなり、すでに仕事や地域で社会参画をはじめている外国人住民のさらなる社会的承認欲求に対し、中級～中上級の日本語教室を設置し、地域の活力となりうるグローバル人材を養成する。
また、本講座が地域日本語教師を育成するための実践研修の場となるか検証を行う。

（2）取組内容

・平成26年度に当協会が市内某企業と連携し企業内日本語教室をコーディネートする際に行ったニーズ調査によると、外国人従業員が学びたいと希望する日本語レベルは中級、上級に集中していた。実際、行政や地域で開催する初級レベルを対象とした日本語教室には、日本での生活が長い定住外国人の姿はあまり見かけない。これまで長く日本で生活し、またこれからも日本に根付く希望を持つ定住外国人がグローバル人材となり、さらなる地域の活力として活躍するために、日本語のブラッシュアップを目指した講座を開講する。また、講座の目的、内容、カリキュラム、役割分担について協議を行うための講師打ち合わせ会議を行う。

定住外国人のための日本語ブラッシュアップ講座①「日本語コミュニケーション～誤解をうまない伝え方～」（日本語教師による講座形式）
定住外国人のための日本語ブラッシュアップ講座②「日本の組織文化～マナーや接遇、敬語の使い方」（日本語教師とキャリアカウンセラーによるTT形式）
定住外国人のための日本語ブラッシュアップ講座③「読む・自分史を書く（作文）・発表する」（日本語教師による講座形式）

本講座は、必要最低限の言語保障としての日本語教育ではなく、定住者のキャリアアップのための日本語教育であるという理由から有料で行う。また有料化による学習者の反応やニーズも探る。料金は、次年度以降持続可能な損益分岐点と、地域の日本語学習支援団体の料金を鑑みて1回500円と設定する。

（3）対象者

・定住外国人

（4）参加者の総数　　42 人（延べ人数ではなく，受講した人数を記載すること。）

そのうちの日本語学習者数　　42　　人

【出身・国籍別内訳】

中国	10人	インドネシア	人	
韓国	人	タイ	1人	・台湾1人
ブラジル	24人	ペルー	3人	・フィリピン1人
ベトナム	1人	フィリピン	人	・イギリス1人
ネパール	人	日本	人	

（5）　開催時間数（回数）　80　時間　（全28回）

（6）　取組の具体的内容

定住外国人のための日本語ブラッシュアップ講座①「日本語コミュニケーション～誤解をうまない伝え方～」

回数	開催日時	時間数	場所	参加者数	取組のテーマ	授業概要	指導者名	補助者名
1	2015/5/23（土） 9:00～12:00	3	多文化共生センター	10人	許可を求める	1）自己紹介　各自学習目的を確認 2）テキストの使い方と特徴　日本語の特徴を紹介 3）許可をもとめる　文型・表現・ストラテジー	松葉優子	山添有香子
2	2015/5/30（土） 9:00～12:00	3	多文化共生センター	１２人	依頼する	1）自己紹介　新しく参加する学習者の紹介 2）テキストの使い方と特徴　日本語の特徴を紹介 3）許可をもとめる　復習・ロールプレイで表現やりとりの状態をチェック 4）依頼する　文型・表現・ストラテジー	松葉優子	

3	2015/6/6(土) 9:00～12:00	3	多文化共生センター	13人	謝罪する	1)確認テスト 2)依頼された時の表現 3)謝罪する	松葉優子	
4	2015/6/13(土) 9:00～12:00	3	多文化共生センター	14人	誘う	1)確認テスト 2)謝罪を受けた時の表現 3)謝罪するのロールプレイ 4)誘う	松葉優子	山添有香子
5	2015/6/20(土) 9:00～12:00	3	多文化共生センター	14人	復習＆申し出をする	1)確認テスト 2)今までの内容を復習 3)誘いを受ける	松葉優子	山添有香子
6	2015/6/27(土) 9:00～12:00	3	多文化共生センター	12人	助言する	1)確認テスト 2)今までの内容を復習 3)申し出に答える 4)助言する	松葉優子	山添有香子
7	2015/7/4(土) 9:00～12:00	3	多文化共生センター	13人	不満を伝える	1)助言に答える 2)ロールプレイ 3)不満を伝える	松葉優子	山添有香子
8	2015/7/11(土) 9:00～12:00	3	多文化共生センター	12人	ほめる	1)確認テスト 2)復習 （問題の答え合わせ） 3)不満に答える 4)ほめる	松葉優子	山添有香子
9	2015/7/18(土) 9:00～12:00	3	浜松市多文化共生センター クリエート浜松 特別会議室	11人	テスト	1)ほめるに答える 2)テスト(ペーパーテスト＆ロールプレイ)	松葉優子	
10	2015/7/25(土) 9:00～12:00	3	多文化共生センター	12人	総復習	ロールプレイのフィードバック	松葉優子	清水位知子 山添有香子

定住外国人のための日本語ブラッシュアップ講座②「日本の組織文化・マナーや接遇、敬語の使い方～」

回数	開催日時	時間数	場所	参加者数	取組のテーマ	授業概要	指導者名	補助者名
1	2015/8/29(土) 9:00～12:00	3	多文化共生センター	14人	必要とされる資質 会社で働くときの心構え	テキストのキーワードや重要事項の確認。内容要約。　ビジネスマナー（会釈・敬礼・最敬礼） 上司とのやりとり　ロールプレイ	松本三知代 清水位知子	
2	2015/9/5(土) 9:00～12:00	3	多文化共生センター	15人	必要とされる資質 事務職に必要な条件 職務知識	テキストのキーワードや重要事項の確認。内容要約。 情報どり。 ロールプレイ（急なスケジュール変更の連絡、他部署への連絡や対応、依頼）	松本三知代 清水位知子	

3	2015/9/12(土) 9:00～12:00	3	多文化共生センター	13人	一般知識	テキストキーワードや重要事項の確認。ロールプレイ(取引先で待たされた場合、遅刻し場合の対応等)	松本三知代 清水位知子	
4	2015/9/19(土) 9:00～12:00	3	多文化共生センター	15人	マナー・接遇(人間関係と話し方・聞き方、話し方・聞き方の応用)	テキストキーワードや重要事項の確認。ワークショップ(聞き方あいづち、顔の表情) わかりやすい話し方、・説明、敬語	松本三知代 清水位知子	
5	2015/9/26(土) 9:00～12:00	3	多文化共生センター	14人	マナー・接遇(人間関係と話し方・聞き方、話し方・聞き方の応用【注意忠告、苦情処理】)電話応対、席次接待見送りの知識	注意忠告をする受けるなどロールプレイを通してコミュニケーションには何が必要なのか確認。また、電話応対のマナーを通して職場で困った経験や言葉遣いの日本語特有の文化などを共有し問題解決を図る。	松本三知代 清水位知子	
6	2015/10/3(土) 9:00～12:00	3	多文化共生センター	11人	会議、パーティ、慶事などの振る舞いを通して日常で必要な日本企業の文化に対する理解を深める。	会議の接待に必要な茶菓のもてなしマナーを実践。さりげない一言や声掛けを行うことでスムーズに案内できることを体験。	松本三知代 清水位知子	
7	2015/10/10(土) 9:00～12:00	3	多文化共生センター	13人	会議概要とセッティング、社内文書社内メールの作成方法、電話メモの取り方を習熟。	社内メールの書き方プリントを通して、文書には何が必要なのか言葉遣いは？など日本語とマナーの視点から文書とメールの取り扱いについて学習を深める。	松本三知代 清水位知子	
8	2015/10/17(土) 9:00～12:00	3	多文化共生センター	11人	郵送の種類と文書ファイリングについて理解を深め再確認を行う。	郵送・ファイル・社内環境の整備など。また、会議接待のロールプレイを実践しマナーを体感。	松本三知代 清水位知子	
9	2015/10/24(土) 9:00～12:00	3	多文化共生センター	13人	敬語の復習を行いさらに理解を深め応用できる。また、人間関係の形成に必要なものは何か考える。	敬語を社内(うち)社外(そと)の使い方について復習とロールプレイ。二人一組で練習を行う。また、社内で起こりうるコミュニケーションを通して快適な人間関係形成に必要なものはなにか。マズローの5大欲求とホーソン実験を通してキャリアプランについて考えを深めた。	松本三知代 清水位知子	
10	2015/10/31(土) 9:00～12:00	3	多文化共生センター	11人	秘書検定テキストにある問題を最終確認し、問題文を説くポイントをとらえる。	秘書検定テキスト内の問題の中には、ひっかけ問題も多くある。特に、自分のこれまでの経験と照らし合わせた際に、日本語の使い方や日本社会での独自のマナーなど実践を行いながら秘書の役割について最終確認を行う。	松本三知代 清水位知子	

定住外国人のための日本語ブラッシュアップ講座③「読む・自分史を書く(作文)・発表する」

回数	開催日時	時間数	場所	参加者数	取組のテーマ	授業概要	指導者名	補助者名

1	2015/11/28(土) 9:30-12:00	2.5	クリエート浜松 51会議室	6人	①自分のことが分析できる、②異文化間の「自己紹介」の差が理解できる	①ペアになり、話し合い、相手の印象を紙に書いて渡す(4回入れ替え)、②①も材料にして、自己分析をし、短い文で書いてみる。③読解(速読)、④単語と単語をつなげ、短文作成をする練習。	坂本勝信	内山夕輝 河口美緒
2	2015/12/5(土) 9:30-12:00	2.5	クリエート浜松 51会議室	8人	①自分のことが深く分析できる、②自己描写の表現を身につける	①いいイメージと悪いイメージの性格を表す言葉の整理(宿題の確認)と共有、②読解(速読)、③自己分析(自分の性格・好きな人／場所／こと・嫌いなこと・苦手なこと)、④ジョハリの窓を使った自己分析、⑤自己描写の表現導入と練習(プラスのイメージ→プラスのイメージ＋例→プラスのイメージ＋マイナスのイメージ)	坂本勝信	内山夕輝 鈴木由美恵
3	2015/12/12(日) 9:30-12:00	2.5	多文化共生センター	9人	①自分と母国・自分と日本をつなげる、②わかりやすい文章・説得力のある文章のコツを知る	①母国への思いをペア、全体で共有(宿題の確認)、②日本での歴史をペア、全体で共有(宿題の確認)、③読解・人の文章から学ぶ(わかりやすい文章とは？)④読解・人の文章から学ぶ(説得力のある文章とは？)、④単語と単語をつなぐ練習	坂本勝信	河口美緒
4	2015/12/26(土) 9:30-12:00	2.5	多文化共生センター	6人	①人への伝え方・人への伝わり方を学ぶ、②写真の描写の仕方を知る	①本当の自分(母国と日本と私、そして、未来)をペア、全体で共有(宿題の確認)、②写真の描写(口頭で)3分→2分→1分、③写真の描写法の導入(筆記)、④昨年のフェスティバルの「自分史を語る」のスライド視聴、⑤④の感想共有、	坂本勝信	内山夕輝
5	2016/1/9(土) 9:30-12:00	2.5	多文化共生センター	7人	①思い出の写真について語る文章が作成できる、②添削された文章をもとに推敲できる。	①添削された「本当の自分(母国と日本と私、そして、未来」を返却し、原稿用紙の使い方のルールを学ぶ、②前回の自主的宿題(写真の描写法)をやってきた2名によるグループ発表、および、発表者への質問とアドバイス、③持参した写真ごとに、キーワードの抽出と、それぞれの語り文を書く、④③のペアでの共有	坂本勝信	内山夕輝
6	2016/1/23(土) 9:30-12:00	2.5	多文化共生センター	6人	①写真を盛り込んだポスターのデザインをイメージできる、②発表の仕方・話す際のポイントがわかる。	①前回の宿題(ポスター発表用の写真の描写文作成)をペア、グループで突合せし、質問や助言をもらう、②「本当の自分」というテーマでのスピーチ映像を見て、発表の際気を付けることについて、話し合う、③ポスターイメージを作成する。	坂本勝信	内山夕輝
7	2016/1/30(土) 9:30-12:00	2.5	多文化共生センター	5人	①写真を盛り込んだポスターを完成する、②ポスター発表のための原稿を完成する、③ポスター発表のためのよりよき話し方を身につける	①模造紙を使って、ポスターを完成する、②ポスター発表(グループごと)の模擬練習をする、③発表の仕方・話す際のポイントを復習する	坂本勝信	内山夕輝
8	2016/2/6(土) 9:30-12:00	2.5	クリエート浜松 特別会議室	7人	①これまでの学びを活かした発表ができる。	①一人ずつのポスター発表(5名)、②パワーポイントを用いた発表(2名)、③ポスターの自由閲覧と質疑応答(全員)	坂本勝信	内山夕輝 河口美緒 鈴木由美恵

（7） 特徴的な活動風景（2～3回分）

活動例①

【第①－1回　平成27年5月23日】
初回ということもあり、中級~中上級程度の学習者がいつ、どこで、どんな風に日本語で困るのかを共有した。なぜ誤解や摩擦が生じるのか、またそれを防ぐためには何に気をつければよいのか、テキスト上の表現だけでなく言葉の裏にある日本文化についても説明をした。

活動例②

【第②－5回　平成27年9月26日】
マナーにまつわるロールプレイを通して日本語の細かい言い回しなどを体験。日本の茶器などの使用法についても体験を行った。

（8） 目標の達成状況・成果

①定住外国人のための日本語ブラッシュアップ講座①「日本語コミュニケーション～誤解をうまない伝え方～」
ブラジル人の参加が約半数となり、ニーズに即した教室ができたといえるだろう。一方、留学生として来日しその後日本の企業に就職をした青年たちや、就労ビザで来日し企業で働いている人も教室へ申込をしたことから、単に日本語の知識だけでは職場内でのコミュニケーションが必ずしも円滑にいかないということがわかった。例えば、はっきりと主張をしないと話を聞いてもらえない文化背景を持つ学習者が、言葉を日本語に置き換えただけの同じ調子で発言し、先輩から偉そうだと注意を受けた話や、敬語を学んで知っているもののどのタイミングで言えばいいのかわからない等、学習者からのエピソードが多く集まった。これら事例を集め、雇用主や地域等、外国人を受け入れる側に対する異文化理解を求めていくことも必要だと感じた。
プログラムについては、満足しているというアンケート回答が92%とあり、評価の高い結果となった。日本語だけではなく、日本社会のマナーや文化背景等も含まれたコミュニケーション方法について、具体的に学ぶ機会になったからではないか。また、講師に対する評価も非常に高かった(良い92%)。学習者からは、職場の上司から言葉遣いが変わったという評価をもらったという感想や、間違えている箇所を指摘してされることにより多くの気づきがあったという感想もあり、ニーズに即した満足度の高い内容となった。

②定住外国人のための日本語ブラッシュアップ講座～日本の組織文化・マナーや接遇、敬語の使い方～
せっかく秘書検定テキストを使って学習してきたので、希望者には秘書検定の受検を勧めたところ、今回は2級受験者3名、3級受験者2名の申込があった。2級受験者は中国人2名とブラジル人1名で日本の企業と歯科医院に勤めている。3級受験者は、南米系日系人で日本育ちの30代である。試験は11月7日に行われ、2級を受験したブラジル人1名と中国人1名が合格した。日本社会で生き抜くための武器となる資格へのチャレンジにニーズがあることもわかったので、今後のプログラム作りへの参考にしたい。
また、本教室を通して、外国人が社会に認められながら生きていくためには、日本語の知識だけではなく、日本人とコミュニケーションを円滑にとることが求められていることがよくわかった。学習者はすでにコミュニケーションをとるだけの日本語会話はできるが、社内で摩擦を感じることがあるという。例えば、「先輩にお手伝いしましょうか」と声掛けをしたところ、「いいの？」と聞き返され意味がわからず黙っていた。その後、手伝ってほしいと言われなかったのでその日は帰ったところ、後日上司から、みんなが忙しい時はできるだけ手伝うようにと注意を受けたという。また、自分は日本人のようにお辞儀を何回もしていないのだが失礼にあたるのか。等の質問もあがる。社会に適応するために日本語以外の部分も懸命に学ぼうという姿を見ていると、われわれが彼らにどこまで求めればいいのか、多文化共生社会は、外国人側の努力だけで成立することではないとあらためて実感した。
いずれは、先のような事例を集めて、採用する企業側に対する異文化理解教室等へ発展できるといいかもしれない。

③日本語ブラッシュアップ講座③～読む・自分史を書く（作文）・発表する～
写真で語る私の歴史イベントを講座の最終目標に設置した8回のカリキュラムで行った。学習者は、ブラッシュアップ講座①もしくは②から受講している方がほとんどで、新規は2人だった。そのため、学習者間で既に人間関係ができており、良い雰囲気で授業が進められた。
読みの学習では、講師が語彙確認や文法確認を非常にわかりやすくしてくださり、学習者は熱心にノートを取っていた。また、講師は勤務先の大学で日本人学生へのキャリア指導もされており、講座の中で作文発表の教材や映像を見せてくださったので、学習者にとっては大学レベルの指導に触れる良い機会となった。
自分史を書く学習では、学習者が各々の過去を振り返り、写真を用いながら作文に書き上げていった。皆この作業を丁寧に行っており、学習者の中にはこれをきっかけに自身のルーツを確認するため、JICA横浜移住資料館へ調べに行く者もいた。また、ブラジルにいる家族から写真を取り寄せたり、来日後の写真を整理したりと思い思いに自身の過去を振り返る機会になったようである。文章を書く際のコツについても講師より指導があり、普段日本語には苦労していない学習者たちも、あらためて自身の日本語を見直していた。
発表の学習では、フォーマルな話し方のポイント指導を受け、全員が発表会で問題なく発表することができた。話の途中で過去の感情がよみがえり涙を流す者もいて、非常に感動的で心温まる時間となった。学習者の1人が写真で語る私の歴史イベントで発表を行い、講座との連動ができたことも成果の一つである。
学習者からは、「自分の人生をあらためて深く考える機会になった。文章にすることで本当の自分自身のことがよくわかって、これからの人生をもっとハッピーに生きたいと思った。少しの元気と自信につながった。」という声がよせられた。講座を受講した成果として発表会を置いたことにより、学習者にとっては、目標ができ意欲が継続したこと、学習者間での協力があったり、前向きな競争心が芽生えたりしたこと、発表を通じて自身の人生を見つめ直すきっかけとなり将来への希望や自信につながったこと等の効果があった。また、発表を聞く側にとっても定住外国人の人生や生活、誇りを知る機会となり、地域を共につくる対等な仲間という意識が生まれる効果があった。

（9） 今後の改善点について

日本語ブラッシュアップ講座①　～誤解をうまない伝え方～
アンケートの中で、日本社会で人間関係を作ったり、人間関係を円滑に進めたりするための工夫が学べたという回答が複数あった。これらの回答から、私たちホスト社会側が何を感じ、外国人にどこまでの日本語能力を求め、どういう社会を描いて一緒に作っていくのかを当事者として考えていく必要があると突きつけられた。また、この課題について広く発信していくことも協会の重要な使命と考える。今回の結果をふまえて、今後もニーズに即した日本語教育プログラムを企画運営し、体制に働きかけていきたい。

日本語ブラッシュアップ講座②～日本の組織文化・マナーや接遇、敬語の使い方～
日本人にも一般的に知られている秘書検定のテキストを使って授業を進めた。学習者は非常に熱心で、事前にルビをふったり語彙を調べるなど準備をして臨んでいたが、やはりテキストはかなり難しかったようだ。テキストのリライトか、もう少し時間をかけるか検討が必要である。また、彼らが地域にとって貴重な人材であることを社会へ広く発信し、多文化共生社会構築に対する理解を求めていきたい。

日本語ブラッシュアップ講座③～読む・自分史を書く（作文）・発表する～
講師が作文指導を授業時間外にメールでしてくれていた。今回は講師のボランティア作業に甘えてしまったが、定番の講座にするためには講師との事前打ち合わせが必要。
学習者のうち1人が自分史というテーマでは作文を書きたがらず他のテーマで書き始めたが最終的に離脱してしまった。自身の過去を振り返るのは、時と場合によっては痛みを伴う作業なので、申込受付の際に確認することが必要。

取組4：グローバル人材発信イベント「写真で語る私の歴史」

（1）体制整備に向けた取組の目標

・地域に根付いている外国人住民が、地域の活力となりうるグローバル人材として社会に広く認知されるよう、写真を使い日本語で自分史について語るイベントを行う。これまでの定住の歴史や苦労、どのように日本語を習得してきたか、困ったときにどのように克服してきたかを実体験の中から語ることにより、多文化共生のための日本語教育の必要性について、市民へ広く呼びかけるきっかけとする。

（2）取組内容

・浜松市は外国人が多く集住する都市であり、職場や学校、地域において、日本人、外国人間の接触場面は少なくないのだが、相互理解がさほど進んでいないことが課題の一つである。ホスト社会側がより一層外国人住民への理解を深めるために、写真を使ったストーリーテリングの手法を使って定住外国人のライフヒストリーを紹介するイベントを行う。取組3の日本語ブラッシュアップ講座の学習者や、地域日本語学習支援団体、外国人を採用する企業等に呼びかけ、イベントで発表を行う外国人を募る。高校生や大学生等、将来を担う若者への呼びかけや、外国人を雇用する企業にも積極的に広報活動を行い、多くの市民が参加できるよう働きかけていく。
また、作品を作る際には、外国人発表者と日本人支援者が対話をしながら協働で作業を行い、イベントに参加するための準備を通じて相互の関心理解を深めていく。

（3）対象者

・地域住民、企業担当者、地域日本語学習支援団体関係者等

（4）参加者の総数　143 人（延べ人数ではなく，受講した人数を記載すること。）

そのうちの日本語学習者数　0　人

【出身・国籍別内訳】

中国	10人	インドネシア	人	
韓国	人	タイ	人	・
ブラジル	20人	ペルー	10人	・
ベトナム	人	フィリピン	15人	・
ネパール	人	日本	98人	

（5）　開催時間数（回数）　2.5　時間　（全1回）

（6）　取組の具体的内容

回数	開催日時	時間数	場所	参加者数	取組のテーマ	授業概要	発表者名	補助者名
1	2016/2/14（日） 10:00～12:00	2	クリエート浜松	143人	写真で語る私の歴史	浜松に住む外国人住民が、貴重な写真とともに自らの歴史を振り駆るイベントを行う。外国人住民がそれぞれに歩んできた道のりを写真を使って語り、次世代の若者や子どもたちへ浜松定住の歴史を伝える機会とする。ホスト側に立つ日本人社会に対しては、外国人のことを身近に感じることによって多文化共生社会の意義を理解する機会とする。	光城・ジャネット・マリア（ブラジル） 冨永結愛（中国） 村松エンカルナシオン（フィリピン） サコ・フジサワ・クリスチーナ（ブラジル） エルマー・アルバリコ・ガバネ（フィリピン） 宮城ウェベルチ（ブラジル） ロドリゲス・ナガオ・マイシャ・ミラグロス（ペルー）	菅沼夢（中国） ゴメズ・ジェニファー（フィリピン） シャオイーシュウ（中国） リューセイ（中国） グナワン（インドネシア） フジタジオマーラ（ブラジル） 梅野ピン（タイ） 鈴木陽一郎

（7） 特徴的な活動風景（2～3回分）

活動例①

【平成28年2月14日】
ブラジル、ペルー、中国、フィリピンの4カ国7名の外国人住民が自身のライフストーリーを写真を使って語るイベントを行った。発表作品づくりは日本人支援者と協働で行い、発表者にとっては文章のまとめ方や順序立てた説明の仕方、発表の際の声の出し方を学ぶ機会となった。

活動例②

【平成28年2月14日】
発表後は、ロビーでパネルを前に観客の方々と交流を深めた。また、日本語を学ぶ学習者が受付や誘導、司会を行い、一般の方々に外国人住民の活躍する姿を発信した。

（8） 目標の達成状況・成果

昨年に引き続き2回目のイベントとなった。今年度は、大学生、農業や介護で働く労働者、山間地のお嫁さん等、様々な背景を持つ外国人が発表を行った。発表者の家族や応援団が聴きに来てくれていたほか、大阪、三重、京都、神奈川、東京等県外から足を運んでくれた方もいた。今年度は特に発表者から、「今まで自分のことを聞かれたことがなかったのでうれしい」「自分の過去を振り返ることができこれからの人生に前向きになった」「日系人なのに見た目が日本人らしくなく自信を失っていた姪から、発表に使った親戚の写真がほしいと言われた。友達にルーツを話したいと言われて誇りに思った」等、感謝の声が寄せられた。また、外国人聴衆者からは「自分も同じ悩みを持っていた。誰かに話したかったので（代弁してくれて）すっきりした」「来年は発表してみたい」等の声も寄せられた。日本人への多文化共生理解の色合いが強いと思っていたが、外国人へのエンパワメントに貢献できたのは大きな成果だと思う。
また、今回は司会や受付にU-ToC学習者が入ってくれ、外国人が活躍する様子も発信することができた。U-ToCでも同様の発表会を行うことになり、イベント参加により刺激を受けた学習者らが熱心に作品作りを行うなど、活動の広がりにつながった。

（9） 今後の改善点について

あいにくの雨ということもあり前半の客足が伸びず残念だった。来年度の集客方法に工夫が必要。パネル展示にももう少し工夫があるといいという意見をいただいたので検討したい。

8.　事業に対する評価について

（1）　事業の目的・目標

外国人集住都市浜松では、外国人住民の定住・永住化が進んでいる。これまで、行政、NPO団体、当協会等が市内で日本語教室を開催してきたが、定住が長くなるにつれ外国人住民の日本語教室に対するニーズが変化していることがわかってきている。一方で、新しく浜松市の住民となる外国人も増加しており、これから日本語を学ぶ人を対象とした教室と今後グローバル人材となり地域の活力になるために必要な日本語を学ぶ教室の両輪が必要になると考える。

（公財）浜松国際交流協会は中間支援組織として、地域の特徴や現状を見極め、それに適した日本語教育ができる人材を育成していくことが、将来的に当地域の日本語教育が充実することと考え、浜松版地域日本語教師の育成について検討する事業を行う。また、既存の地域日本語学習支援団体に所属する日本語教師や、日本語教師の資格を取得中の方々の横のつながりを築くため、情報交換、情報共有を積極的に図る。

（2）　目的・目標の達成状況

・本事業を通じて、日本に定住する外国人との共生の在り方について、日本語教師や日本語学習支援関係者のみならず、民間企業や行政とも意見交換を行う機会となった。特に、日本語教育の重要性の再確認、また日本語教師の確保についての課題が共有されたのは大きな成果である。
写真で語る私の歴史の発表者を外国人学校や専門学校、大学から紹介してもらうことにより団体間の連携が深まった。発表を通じて、外国人当事者が日本語教育の重要性を訴えたり、彼らの活躍のを発信することができた。

（3）　地域における事業の効果，成果

・写真で語る私の歴史のアンケート結果より、外国人住民の苦労が日本語でのコミュニケーションが難しいことに少なからず起因していることが伝わっており、日本語教育の重要性を発信することができた。
日本語ブラッシュアップ講座の受講生から来年度の講座の予定を尋ねられ、中級～中上級学習者でさえも、地域で活躍するために日本語をもっと学ぶ必要があると感じていることがわかった。
HAJAC養成講座より、地域で活動する日本語教師に実践研修のニーズがあることがわかった。

（4）　地域の関係者との連携による効果，成果

・本事業を通して地域の多様な関係者とどのように連携・協力したか。写真で語る私の歴史の発表者を紹介してもらうことをきっかけに、外国人学校や専門学校、大学の教員との連携が一気に深まった。学びのつなぎを行うためにも今後も円滑な関係を維持していきたい。
運営委員会を通して外国人を多く雇用する企業担当者から社内における多文化共生化の重要性が聞かれたのは成果と考える。

（5）　事業実施に当たっての周知・広報と，事業成果の地域への発信等について

・機関紙へのチラシの挟み込み、市内施設でのチラシの配架、エスニックショップでのチラシの配架、Facebook、HP等、様々な手段を使って広報を行った。
写真で語る私の歴史の映像をDVDにし、国際理解等の教材として、必要な方に配布していく方法を検討する。

（6）　改善点，今後の課題について

①現状：体制を整備するためには継続的な予算化が必要であり、一、公益財団法人が簡単に行えることではない。現場からあがったニーズを検証し、企画を立て、地道に行政に提案し続けることがまだまだ必要である。

②今後の課題：地域日本語学習支援団体と本事業の結果をできる範囲で共有し、学習者のニーズである日本語教室の対応レベルの拡充を検討することが必要である。

③今後の課題解決に向けた活動予定：地域で活動する日本語教師の数と質を確保するために、今年度開発した浜松版地域日本語教師養成講座を開講していきたい。

（7）　その他参考資料